

## 2020年度 IR Day における質疑応答（デジタルプラットフォーム戦略）

日 時： 2020年 9月14日（月） 15:30～16:00

場 所： NEC本社ビル B1F（多目的ホール）

説明者： 執行役員常務 小玉浩

### 質問者 A

Q FIWAREについて、欧州発の規格で日本でも導入される事例がでてきているとのことですが、競合という意味で他にどのような規格があるのでしょうか。今後日本国内で、地方のデータ基盤を構築するという課題がある中で、FIWAREがかなり期待できるソリューションと考えてよいのでしょうか。国内でデータ統合していく流れの中でFIWAREに代わるようなソリューションはあるのでしょうか？

A FIWAREはデータの連携、利活用の基盤を支えるスマートシティのプラットフォームです。国内では11都市に導入しております。FIWAREは自治体を繋ぎ、価値を創出するという点で大きなパワーを持っており、ここにいち早く着目し、実績を積み重ねて、国内においてはこれをデファクトとして展開しており、大きな事業になると考えています。また、開発のメンバーもインド等にラボを立ち上げており、国内だけでなく、グローバルにプラットフォームを活用できると考えております。スマートシティの領域では各国でいろいろな規格が存在しますが、結果的にすべてに統一された規格を待っていても何も進みません。主要となるこの規格とうまく連携することが重要であり、FIWAREはデータ連携基盤としては揃っており、他の規格とも連携ができるものと考えております。

### 質問者 B

Q NECの中でのDXの定義を教えてください。また開示いただいているDX指標など、外部の目から確認できるもので解説をお願いします。

A 現時点でDXはAI、映像技術、セキュリティなど、NECの中で定義をして、トラッキングしています。今後はガバナンスコードが設定されますので、それに準拠して、何

をDXとするのか、またはDX人材とするのか定義を明確にし、全社共通のものにしていこうと取り組んでいるところです。この定義を元に中期計画や成長戦略などを策定していきます。

Q 説明資料の中で、デジタルプラットフォームを支えるプロダクトとしてハードウェア、一部ミドルウェアも紹介されています。今後のクラウドの進展で、ハードは見通しが厳しくなると思いますが、この見方についてコメントをお願いいたします。

A ハードウェア単体というよりはソフト、サービス含めて、価値をどう提供するかが重要であり、その中に差別化できるハードウェアを組み込んでいくということに主眼を置きたいと考えています。ただハードウェアの領域も、ある程度は力がないと全体を強化できませんし、ハードウェアの知見があるからこそ、ソフトウェアの強さも引き出すことができます。我々の持つハードウェアの開発力をその強みとして活かしていきたいと考えます。

#### 質問者C

Q NECの中でDXをどのように把握すればよいのか悩んでいます。売上や利益で直接回答頂けないのであれば、従事している人員数や投下資本など、DXへの取り組みや体制の規模をはかれるような指標があれば教えてください。また、DXの強みについて、説明資料の14ページに多岐にわたるパネルがありますが、国内の競合他社に比べ、このパネルにはどのような特徴があるのでしょうか。取り揃える幅なのか、深さなのか、競争環境の中で比較感についてコメントあればお願いいたします。

A DXの人材や資本の取り組みについてですが、まずはベースとしての人員を揃えるということ、コンサルティング能力を磨くこと、試行錯誤しながら進める領域でもあるので、ナレッジを蓄積することに注力しています。今後、COVID-19の影響もあり、DXは大きく拡大しますので、それに向けて次期の中期計画の中で指標などを見える化し、NECとしてのDXとその注力領域や規模について共有していきたいと思えます。オフリングの事例につきましては、我々は企業、産業をつなぐバリューチェーンイノベーション、セーフアーシティーズに注力しておりますので、その価値を上げ

るためにDXで何ができるのか、ここに競争優位性を置いて組み立てているところ  
です。他社も総合的な部分、尖がった部分を取り揃えてくると思いますが、他社がど  
うではなく、COVID-19の影響もあり、日本全体でDXを用いて社会の生産性を上  
げていかないと経済がなりたたない厳しい状況としますので、連携も含めて社会全  
体として取り組みたいと思います。今はバリューチェーンイノベーションやセーフ  
ァーシティーズを更にスケールするためのDXオフアリングを強化しています。

以 上